読者がつくるページ

写真を再生

宮崎・高原町　アナログな私

夫の誕生日祝いに子どもたち家族全員が集まりました。

そのなかで、なんと50年前に亡くなった夫のお父さんの仏壇の写真をAIで手を加え、表情や言葉を再生したものを見せてくれました。私でさえお会いしたことのない義父を子どもたち（孫たち）が再現。なんとも不思議、夫も私も感激でした。

いよいよ補聴器か

長野・東御市　田丸幸子

会議で、10人中2人くらいの人が何を言っているのか聞こえない。これはダメだと耳鼻科に行き、補聴器を勧められた。

テレビの音はとてもよく聞こえるが、肝心な会話は半分くらいしかわからない。それでもおとなの意見はわかるようになったので、あとは訓練で子どもの会話がわかるようになりたい。本当に、訓練と慣れでわかるようになるのか、また、補聴器は一体いくらなのか何の説明もなく心配は続く。

気持ちを新たに

千葉・柏市　のり（76）

映画『女性の休日』を見ました。印象的だったのが、この集会を「ストライキ」ではなく、「休日」という日常的な言葉に変えたことです。

いろいろな活動の場面で、私たちは前のめりに強い言葉を使ってしまいがちで、このことに違和感をもっていました。ある団体では、若い女性から「会の名称が怖い」との意見を受けて、柔らかく分かりやすい言葉に変えたとのことに、今までにない状況を感じました。

分かりやすい日常の言葉選びを心がけていきたいと、気持ちを新たにしました。

「女押出し」の記事

埼玉・所沢市　田中雪江

昨年11月1日号「女押出しと支援する人々」の記事を読み、群馬県の田中正造記念館まで足を運んでくださった方々に厚くお礼を申し上げます。

私は田中正造が生まれた栃木・佐野市出身で、先祖は足尾鉱毒の被害農民でした。地元なので多少の知識はありましたが、「女押出し」を知ったのは2016年。富山在住の水無瀬梓さんの小説『女たちの押し出し』のおかげでした。8年前に小説を知った経過を文集にした縁で記念館に協力するようになり、「女押出し」展の取材を編集部に要望したのです。

誘い合わせて来館された方も多く、来館者ノートには京都の会員の感想もありました。女性の活動に敏感に反応する方が多いのは、さすが新婦人。記事の掲載ありがとうございました。

寒さに勝てない

大阪・枚方市　菊川和栄

冬に備えて厚手のズボンを買って、もう安心と思いきや、朝夕の寒さは予想を超える。結局、ズボンは2枚、上は5枚くらい重ね着して、ロボットみたいな動きになっています。ズボンを新調してさっそうと活動するつもりだったが、寒さには勝てない。ヨタヨタモタモタ。でも、暖かくして外出できるから、ま、いいか。

川柳

・風邪用心早苗用心民肥せ　大阪・豊中市　則清礼子（82）
・カメムシやムカデは突然家の中　和歌山・田辺市　江藤弥生（70）

読者文芸　あなたも詩

瀬野　とし　選

〈投稿規定〉作品は16字16行以内、未発表のものに限ります。住所、氏名を明記して、編集部「あなたも詩」係へ。詩は年4回（1、4、7、10月）掲載です。次回掲載（4月）の締め切りは3月30日。

マンドリンコンサート

京都府　山口　静子

すべての武器が楽器に変わったら
地球に流れる平和の曲は　どんなだろう

ひまわり5本　花束にして
53周年コンサート会場へ
ポール・モーリア「涙のトッカータ」
コーラス「地上の星」組曲「山の印象」
背筋を伸ばしたマンドリンをつま弾く姿
一枚の絵のように浮かぶ場面
演奏終えたロビー　かけ寄り交わす言葉
〝もう80歳だよ〟
ホッと一言　年齢を告げられた
素敵な　招待状をくださって
こんな感動的な空間へ導かれ
音楽は年齢も国籍も超越
地球を潤おすシャワーだ

読むのが好き

大阪府　奥村　好子

私は読むのが好きです
ドキッとする見出しに心が動きます
わくわくしながら読みます
初めて出会った漢字は
ドキドキしながら辞書を引きます
「陋巷」その意味は
〝裏通りの狭い路地〟とあり
難しい漢字が急に身近になりました
「盤寿」に出会ったのはいつだったかな
〝八十一歳のこと〟の説明あり
十月で八十一歳になった私
その証しに
詩に挑戦してみるのもいいかなぁ
コラムに触発されました
読むのが大好きな私です

笑顔で過ごす

福岡県　藤田　文代

若い頃は「化粧無しでは出掛けない」
年齢を重ね　年金だけのやりくりは
「腹の足にならぬもの」極力省き
両親から受け継いだ「生活の知恵」発散
出掛ける姿は　杖にマスク
玄関鏡に映る私の顔　シミに皺
時を超えた顔に「ギョッ」
その顔は私の人生そのもの　私の年輪
皆に支えられた人生を
今からでも「恩送り」できるだろうか？
トホホの余生を　この地で過ごす
笑顔で過ごすしかないのです

〈評〉**山口さん**。背筋を伸ばして演奏する80歳の方の姿が印象的。「音楽は…地球を潤おすシャワーだ」に共感。**奥村さん**。読むことで新しい世界に触れる喜びがいきいきと伝わる詩。詩作への挑戦がたのもしい。**藤田さん**。受けた恩を他の人に返す「恩送り」は味わい深い言葉。人の心を温める「笑顔」は、充分「恩送り」になると思います。

読者文芸　あなたも俳句

金子まさ江　選

冷まじや天にミサイル地に瓦礫
千葉県　卯の花

〈評〉収束の見えないウクライナやガザの戦闘地域の極めて危険で悲惨な現状を「天にミサイル地に瓦礫」という簡潔な表現で告発している一句。「冷まじ」の季語が効いている。

金婚の味も浸みたる煮大根
長野県　小林さだ子

〈評〉金婚と言えば五十年。煮大根のやわらかさから、夫婦の歩んできた歳月や温もりが感じられる。味は格別だ。

冬紅葉五体支へる杖いっぽん
兵庫県　川原　信子

〈評〉杖一本で五体（身体）を支えているという情景から、老いや病に立ち向かう前向きな意志もうかがえる。

紅型の琉装弾ける首里の秋
京都府　木村喜代美

〈評〉スガイは沖縄の伝統衣装のこと。紅型は沖縄伝統の鮮やかな色彩や模様の染物で、首里の秋の風景と合っている。

名優逝きて能登の舞台や冬来たる
兵庫県　前田　秀子

〈評〉仲代達矢さんの訃報は衝撃だった。生涯反戦を貫き表現してきた名優だ。自然と一帯の能登の舞台の一抹の寂しさが伝わる。

稲架もなく取り入れ終えし郷景色
福島県　佐藤　正子

〈評〉稲架が消えた田から収穫の余韻、郷の秋の移ろいをしみじみ感じている一句。

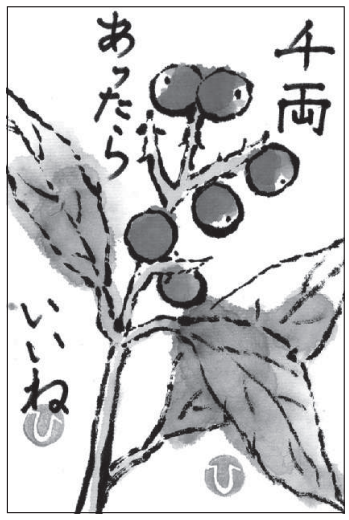
秋夕焼終着駅はまだ遠い
大阪府　甲田　靖子

さわやかや補聴器の耳心地良し
長野県　石井日奈子

軍拡を約す総理や深む秋
長野県　米沢加奈子

雲晴れてスーパームーンの発つ光
東京都　徳田志津子

〈作品募集〉ハガキなどで編集部「あなたも俳句」係まで。作品は未発表のものに限ります。



埼玉・秩父市　豊田日出子